

9月 (定例)・臨時 教育委員会会議録

日 時	令和元年9月3日(火) 午前10時から
場 所	山梨市役所 3階 応接室
出席委員名	澤田隆雄、佐野千春、林正文、三森智文、武井茂
出 席 事務局員名	加々美修、望月好也、菊嶋幸基、古屋雅章
署名委員名	
委員会書記	

議題及び議事の概要

○議事

(1) 夏季休業中における児童・生徒の指導等の状況について

事務局・菊嶋) 【各学校の様子を取りまとめた資料に基づいて説明】

武井委員) 資料の中にある、後屋敷小学校のプールの措置2日というのは、どのような措置を実施したということか。

菊嶋) 熱中症への対策措置を実施したのが2日あったということです。

(2) 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について

事務局・古屋指導主事)

【市としての結果の取り扱いおよび調査結果を資料に基づいて説明】

林委員) これは、県全体で全国比較などが新聞にのっていたものと同じものか。

古屋指導主事) 同じもの。市教委としては、学校ごとなどの個別の数字は出さないこととしている。

佐野職務代理) 昨年、セミナーで山梨大学の講師から、大阪のほうに行ったとき、「山梨は大変人間性の良い子供が育っている」と言われすごく嬉しかった、という話を聞いた。人間性が良いことに加えて、学力についても平均より上回っているということであれば、大変素晴らしいと感じる。

林委員) 英語の結果において、共通的にここができてない、例えば問3なら問3ができていない、というようなところはるか。

古屋指導主事) ここが特によく間違えている、というような偏りはない。各個人の個票を見て、先生が、個別にこの問題が弱いから指導するようなことで対応をする。

澤田教育長) 英語や数学など各教科の結果について、この部分が弱い、という傾向はある程度はわかるので、今後分析しながら校長会などで伝えることで対応し、点数が低い

ところは強化していく。

古屋指導主事) 学校ごとにデータを確認し、点数が低いところには、対応してもらうことも必要であるとする。

林委員) やってやりっぱなしということではなく、対応が大事であるとする。

武井委員) 学校においては、少人数などの問題があり、指導が難しいところもある。過去、学力別にクラス分けをしたが、そのクラスの中であっても上と下では学力差も大きい。学力別に分けた場合に、下の方のクラスをさらに細かく分けて指導するなどということが必要であるが、人員の問題などで難しさがあると思う。

林委員) 学力については、市でも学力向上委員会などを作って取り組んでいるところであるが、学力が全ての基礎であると思う。学力がなければ生きる力なども身につかない。学校の多忙化の問題などもあるが、これからも学力向上には取り組んでほしい。

武井委員) ICT を活用した教育など、講演会で見たスタイルの教育現場は大変先進的であった。今後の教育については、さまざまなことが出てくるため、取組も大変であると感じる。今後、ICT を活用してデータ分析などを行って、学校現場で活用するためには市の財政負担も大きいのではないかと思う。

加々美学校教育課長) ICT を活用した教育には、現状でもかなりの財政的な配分をしているところである。

三森委員) 現状の子供たちの学力について、平均値より上であるとか下であるなど、学校でも把握していると思う。それに沿った対応を行うことで、全体のレベルアップに努めていただきたい。

(3) 令和元年度第1回生活いじめアンケート集計結果について

事務局・古屋指導主事) 【資料に基づき説明】

古屋指導主事) 否定的な回答について、目を向けていくことが大事であるとする。

武井委員) アンケートに書かれた、具体的内容については、担任、校長が把握してその内容について問題となりそうな場合は、取り組んでいるということによいか。

古屋指導主事) そのとおりである。内容について無記名ではあるが各学校で工夫して、誰が書いたかわかるようにしているので、具体的内容に基づいて、対応に取り組んでいる。

武井委員) 個々に把握して、継続して取り組んでいくことが大事である。深刻化すると、大変な問題となる場合があるとする。

佐野職務代理) 小学校3年がいじめられたことが多いと回答しているようだが、どのような傾向があるのか。

古屋指導主事) 3・4年生と、ギャングエイジと呼ばれているように、年齢的にそういった問題が出てくる傾向にある。その後、5・6年生となるとまた落ち着いてくる。そのため、3・4年生は指導が大変な面がある。

(4) 英語教育特例校申請について (R2年度～R4年度)

事務局・古屋指導主事) 【資料に基づき説明】

佐野職務代理) 小学校でこれだけ英語の勉強をすると、中学校にいつてからも、だいぶ学力について違うと思う。

古屋指導主事) まずは英語に慣れ、親しむところから入って、徐々に「勉強」ということにも取り組むようにしている。

佐野職務代理) 英語に慣れ親しむことで、コミュニケーションの力もつくと思う。恥ずかしがってしまうので、コミュニケーションをとることが、日本人は苦手傾向があると思うため。

武井委員) 英語の「教育」ということになると学力差がでる。子供が生活の中の場面設定で会話をするというような取組が必要であると考えている。会話においては、学力差はないと思うため。

加々美学校教育課長) 子供たちが日常のシーンの中で、それに基づく会話をするということを繰り返し行うということが大事であると思う。生活の中で、会話すること事ができるとそれが自信につながっていく。言われたとおり、学力差や能力差の無い「会話」が重要であると思う。

武井委員) 英語教育に関してのボランティアは過去来ていたこともあると思うが、現在は来ているのか。

古屋指導主事) 現在は来ていない。

武井委員) ボランティア等を利用し、負担軽減などに取り組んでほしい。

澤田教育長) 英語教育にこれからも取り組んでいく中で、朝の共通的に取り組む「モジュール」の内容などは、市単位で考えるというような取り組みをすることで、担任による負担を減らしていきたいと思っている。

(5) 実践的な英会話力向上について

事務局・加々美学校教育課長) 【資料に基づき説明】

武井委員) 20人ということで、イングリッシュカフェに参加を希望するものが多数の場合、参加できる人とできない人がいるということが懸念されるがそのあたりはどうだろうか。

加々美学校教育課長) 最初の20人が継続して参加するということではなく、12回の中でそれぞれ20人ずつを対象とするということ。もし定員からあふれた場合は、例えばその次に優先的に参加できるとするなど、工夫していく。

武井委員) 毎回20人ずつということであれば多数参加できると思うので良い取り組みだと考える。

(6) つつじ幼稚園の条例改正について

事務局・菊嶋) 【資料に基づき説明】

佐野職務代理) 給食費は自己負担のままか。

菊嶋) 給食費については自己負担である。保育料のみ無償化される。

(7) 不登校児童・生徒の状況について

事務局・望月生涯学習課長) 【資料に基づき説明】

林委員) 中学校は、令和になってから不登校は減っているということか。

望月生涯学習課長) 現在は7月現在の人数を把握している状態なので、数が少ないということがある。年度末には、例年と同じくらいになるのではないかと思う。

林委員) 新しく不登校となった児童生徒いるか。

古屋指導主事) 現在、提出を依頼していることなので、データとしては手元にない。また確認する。

武井委員) 中学校の場合、学力の問題がある。

澤田教育長) 不登校が改善しても、一定期間不登校であると、それがデータに残ってしまうということもある。

武井委員) 以前、中学3年になると入試など考えて不登校は減ってくるというようなことがあったがそのような傾向はあるか。

古屋指導主事) あまり変わりがない。

佐野職務代理) 県との違いで山梨市はなぜ多いのか。家庭などの問題だろうか。

古屋指導主事) なんとも言えない。地域的には、良いとは思っているのだが。

武井委員) 児童生徒の質としては良いと思うのだが。

古屋指導主事) 児童生徒の質が良いということで、「しわい(しぶとい)」ということが弱いため、「忍耐力」などの点に問題があるかもしれない。

加々美学校教育課長) 生活アンケートの結果から、全般として学校へ行くのが楽しくないというパーセンテージが高いのが気になる場所である。

武井委員) 子供たちの居場所づくり、例えば部活動などを通じてでもいいが、学校の中に居場所がある事が大事だと思う。部活動においても、例えば今までにない新しい取り組みをして、居場所づくりをするなど。各学校で居場所づくりということに取り組んで、不登校児とつながりを途切れない様にする事が大事であると思う。

(8) その他

・学校・園訪問の日程について

事務局・上野) 資料に基づき説明

次回 10月15日(火) 午後1時から

議決事項

その他、会議において必要と認めた事項